

塩の道其の三

大橋中学校 小笠原 龍一

命をつなく道、塩の道は消えてはならない道である。人の命をつなぎ合わせてくれた道だ。今自分たちがいるのは、この下った一つの道が、つないでくれたからである。だがこの道は最初忘れられていた。それとある人が見つけて守り、僕はこの道を失いたくない。多くの人生が受け継がれた美しい道は、古くから続く地域の宝。地域の宝が守り立てられた道を、今度は僕たちが受け継いでいきたい。

山北みかん
海風を浴びて育ち、薄皮で甘み、酸味もと濃くておいしい。
山北塩原には、1860年頃に、取公文鉄作氏が植えた山北みかん発生の木がある。
国内で現存する温州みかんの唯一番長とこれ「長寿みかん」とされている。



山北

長宗我部地権者によると、赤岡に52畝、今在家村(赤岡東部)に21畝、夜須に4畝、岸本に58畝、吉川に106畝、計241畝の塩田があったとされる。赤岡は製塩により、商都へと発展し、絵金の後援者や支援者ともいって、裕福な旦那衆を生み出した。

野市

三宝山

文化4年(1807)時の当主が郷土株を譲り受け、後、代々郷土職を勤めた家柄と旧郷土屋敷の雰囲気も濃くとどめいる。

安岡家住宅

山北西列士の碑
山内親重整居屋敷跡

安岡寛之助嘉助兄弟の功績を伝える。功賞之助は元辰の役に小軍官として参戦。嘉助は吉田東洋と暗黒に吉打虎太郎の元謀殺組に参戦。題字は田中光顯



二つの狼犬が子供を犯している姿が全国的にも珍しく、境内の石に残る穴は弘法大師の杖の跡と伝わる。

宗我神社

曾我遺跡

宗我神社跡
岩田の渡し場

店屋跡

あぐりの里

岩鍋の靴かけ石

西川村道路標

西川

鑛寺は香宗我部氏の菩提寺として天正13年(1585)に建立された。明治4年、廃寺となる。



とろとろ〜と“塩の道”
山から海へ塩の道。そこから何が見え、耳かきにぎやかだった赤岡の遠い音が、見えますが...

木切巨・絵金蔵
塩市のみと塩路石
恋物語の原大坂
丁石たどり渡り
くわくわく続く塩の道
夢を背中に歩いている

馬渡
馬の背に塩や雑貨を積んで往來し、馬の足を冷やして休ませた渡。



西川花公園

赤岡塩市跡

高木酒造
塩の道起点

皇境寺跡



住宅地の中は迷宮みたく、ちよとちよと迷う

灯明台

赤岡

赤岡文橋
相着場跡

岸本

400年くらい前の天正から慶長の年代には岸本から吉川間にかけての海岸は一大製塩地だった。赤岡では塩市が開かれており、この塩を奥地に運ぶための道が塩の道であり、塩生産地と奥地とを結ぶ重要な産業道で、塩に限らず生活必需品や運搬物、相互往來の往還道であった。

戦国時代、阿波日和佐攻めの弟として生まれた瀧五郎次衛(幼名新次郎正儀)は13歳の時、長宗我部に帰順する。兄の戦死をきっかけに武士を捨て大坂天満へ隠遁する。3歳の時、長宗我部元親から要請を受け、赤岡で塩の製造を始める。(慶長元年 1596年)
その頃から赤岡から岸本にかけての沿岸で塩作りが盛んとなり、皇境寺山門前(現在の塩屋餅店〜高木酒造付近)には塩市がたつようになったといわれる。

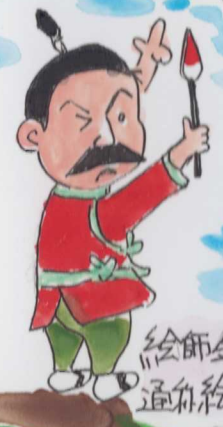
当時の塩市は後免や香北大橋から物々交換をするために来る人で大変にぎわったとされている。

トンボトボ おしまり
赤岡の市で塩買ひ
ねぶらしゃ〜

後年、山内一豊に仕立て、領具足の一揆を取り鎮め、赤岡浦の大庄屋として町づくりを任じられ、上代、代々、瀧五郎次衛を名乗り、大庄屋を明治まで受け継いできた。

塩市にまつわる歌

三脚をここに立て二人並んで
写真を撮ろう
ながめよう景色より
二人並んで写真を撮ろう
サンダーボルト



絵師金蔵
通船絵金

